



第81回国民スポーツ大会・  
第26回全国障害者スポーツ大会  
宮崎県準備委員会



## 第3回全国障害者スポーツ大会専門委員会

期 日 令和2年12月18日（金）  
時 間 午後1時30分から午後3時まで  
場 所 宮崎県庁防災庁舎5階 防52・53号室

### 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 委員紹介及び委員長・副委員長の紹介

4 報告・説明事項

- (1) 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会の開催年延期について【報告】
- (2) 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会大会準備経過【報告】
- (3) 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会開催準備総合計画改正（案）について【説明】

5 審議事項

- (1) 第26回全国障害者スポーツ大会会場地市町村第1次選定（素案）について

6 協議事項

- (1) 第26回全国障害者スポーツ大会に向けた取組について（課題の整理）

7 その他

- (1) 宮崎県と株式会社アールビーズとのスポーツ協働事業に関する連携協定について

8 閉 会

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会  
宮崎県準備委員会  
第3回全国障害者スポーツ大会専門委員会

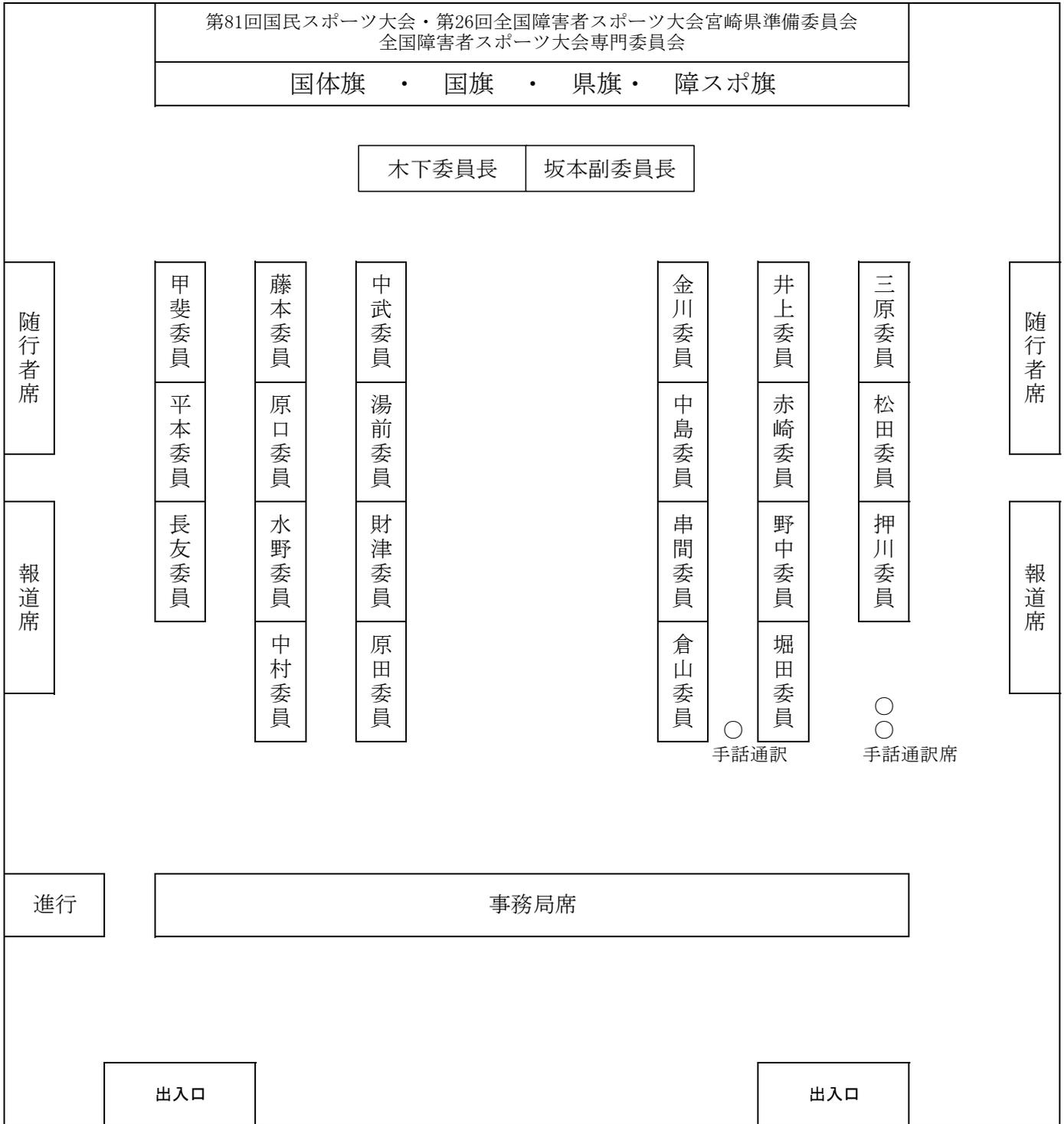
【委員】

(順不同・敬称略)

区分	所属	役職	氏名
スポーツ	宮崎県障がい者スポーツ協会	チャレンジドスポーツディレクター	木 下 理
	公益財団法人宮崎県スポーツ協会	事務局次長	横 山 美 和
	宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会	会長	中 武 久 美 子
	一般財団法人宮崎陸上競技協会	副理事長	湯 前 英 則
	一般財団法人宮崎県水泳連盟	理事	財 津 優
	宮崎県アーチェリー協会	理事長	眞 方 佑 輔
	宮崎県卓球協会	理事長	吉 蘭 孝 雄
	宮崎県障害者卓球連盟	理事	山 口 利 信
	宮崎県障害者フライングディスク協会	事務局長	藤 本 啓 介
	宮崎県ボウリング連盟	理事長	原 口 宏 史
	宮崎県ポッチャ協会	事務局長	水 野 啓 三
	一般社団法人宮崎県バスケットボール協会	監事	中 村 彰 成
	宮崎県車椅子バスケットボール連盟	会長	甲 斐 義 喜
	宮崎県ソフトボール協会	理事長	平 本 修
	宮崎県バレーボール協会	副理事長	長 友 久 夫
一般社団法人宮崎県サッカー協会	常務理事兼 事業・広報委員会委員長	金 川 敏 洋	
学校関係	宮崎県特別支援学校長会	副会長	中 島 浩 美
	公立大学法人宮崎県立看護大学	教授	串 間 敦 郎
医療・福祉	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会	事務局次長兼地域福祉部長	坂 本 雅 樹
	一般社団法人宮崎県身体障害者団体連合会	副会長	倉 山 幸 一
	一般社団法人宮崎県手をつなぐ育成会	副会長	井 上 あ け み
	宮崎県精神保健福祉連絡協議会	事務局長	赤 崎 圭 一 郎
	公益財団法人宮崎県視覚障害者福祉協会	事務局長	野 中 求
	社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会	理事	堀 田 享 志
	宮崎県知的障害者施設協議会	会長	三 原 基 秀
市町村	会場地市町村	※会場地決定後、就任予定	
県	教育庁特別支援教育課	課長	松 田 律 子
	教育庁スポーツ振興課	課長	押 川 幸 廣

**第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会**  
**宮崎県準備委員会**  
**第 3 回全国障害者スポーツ大会専門委員会**

**【座席図】**





第81回国民スポーツ大会・  
第26回全国障害者スポーツ大会  
宮崎県準備委員会



## 第3回全国障害者スポーツ大会専門委員会

### 1 報告・説明事項

- (1) 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会の開催年延期  
について【報告1】 . . . . . P 1
- (2) 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会大会準備経過  
【報告2】 . . . . . P 2
- (3) 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会開催準備  
総合計画改正（案）について【説明】 . . . . . P 4

### 2 審議事項

- (1) 第26回全国障害者スポーツ大会会場地市町村第1次選定(素案)について  
. . . . . P 5

### 3 協議事項

- (1) 第26回全国障害者スポーツ大会に向けた取組について（課題の整理）  
. . . . . P 6

### 4 その他

- (1) 宮崎県と株式会社アールビーズとのスポーツ協働事業に関する連携協定  
について . . . . . P 11

令和2年12月18日（金）

宮崎県庁 防災庁舎 5階 防52・53号室

# 報告・説明事項

第 8 1 回国民スポーツ大会・第 2 6 回全国障害者スポーツ大会の開催年延期について

令和 2 年 1 0 月 1 5 日に開催された公益財団法人日本スポーツ協会令和 2 年度第 2 回臨時国民体育大会委員会において、第 8 1 回国民スポーツ大会及び第 2 6 回全国障害者スポーツ大会の開催年が、令和 8 年（2 0 2 6 年）から令和 9 年（2 0 2 7 年）に変更された。

変更前			変更後		
開催年	回	開催県	開催年	回	開催県
令和 2 年 (2020年)	20	鹿児島県 (決定)	令和 2 年 (2020年)	20	中止
令和 3 年 (2021年)	21	三重県 ( " )	令和 3 年 (2021年)	21	三重県 (決定)
令和 4 年 (2022年)	22	栃木県 ( " )	令和 4 年 (2022年)	22	栃木県 ( " )
令和 5 年 (2023年)	23	佐賀県 (内定)	令和 5 年 (2023年)	特別	鹿児島県 ( " )
令和 6 年 (2024年)	24	滋賀県 ( " )	令和 6 年 (2024年)	23	佐賀県 ( " )
令和 7 年 (2025年)	25	青森県 (内々定)	令和 7 年 (2025年)	24	滋賀県 (内定)
令和 8 年 (2026年)	26	宮崎県 ( " )	令和 8 年 (2026年)	25	青森県 ( " )
令和 9 年 (2027年)	27	長野県 ( " )	令和 9 年 (2027年)	26	宮崎県 (内々定)
令和 10 年 (2028年)	28	群馬県 ( " )	令和 10 年 (2028年)	27	長野県 ( " )
令和 11 年 (2029年)	29	島根県 ( " )	令和 11 年 (2029年)	28	群馬県 ( " )
令和 12 年 (2030年)	30	未定	令和 12 年 (2030年)	29	島根県 ( " )
令和 13 年 (2031年)	31	(奈良県・山梨	令和 13 年 (2031年)	30	未定
令和 14 年 (2032年)	32	県・沖縄県)	令和 14 年 (2032年)	31	(奈良県・山梨県・
令和 15 年 (2033年)	33	鳥取県	令和 15 年 (2033年)	32	沖縄県)
令和 16 年 (2034年)		—	令和 16 年 (2034年)	33	鳥取県 (内々定)

※ 令和 1 3 年（2 0 3 1 年）以降の開催県は、今後、正式決定される見込み。

## 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会準備経過

年 月 日	内 容
平成27年 1月14日	公益財団法人宮崎県体育協会（以下「県体協」という。）臨時理事会及び評議員会において、「平成38年第81回国民体育大会の宮崎県開催招致」を決議
2月12日	県体協が県、県議会及び県教育委員会に「平成38年第81回国民体育大会の宮崎県開催招致要望書」を提出
2月25日	知事が第4回県議会定例会において、「平成38年第81回国民体育大会及び第26回全国障害者スポーツ大会の宮崎県開催招致」を表明
3月13日	第4回県議会定例会において、「平成38年第81回国民体育大会及び第26回全国障害者スポーツ大会の宮崎県開催招致に関する決議」を全会一致で議決
3月16日	定例教育委員会において、「平成38年第81回国民体育大会及び第26回全国障害者スポーツ大会の宮崎県開催招致に関する決議」を議決
4月17日	知事が文部科学省に「平成38年第81回国民体育大会開催要望書」と「平成38年第26回全国障害者スポーツ大会開催要望書」を提出 知事が公益財団法人日本体育協会（以下「日体協」という。）に「平成38年第81回国民体育大会開催要望書」を、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に「平成38年第26回全国障害者スポーツ大会開催要望書」を提出
6月11日	日体協第1回国体委員会において、「平成38年第81回国民体育大会開催申請書提出順序了解県」として承認
7月22日	日体協第3回理事会において、「平成38年第81回国民体育大会開催申請書提出県」として了解（宮崎県開催が内々定）
平成28年 4月 1日	宮崎県教育庁スポーツ振興課に国体準備担当を設置
平成29年 4月 1日	宮崎県教育庁に国体・高校総体準備室を設置
10月30日	第81回国民体育大会宮崎県準備委員会設立総会・第1回総会及び第1回常任委員会を開催
11月14日	第1回総務企画専門委員会及び第1回施設整備専門委員会を開催
11月17日	第1回競技運営専門委員会を開催
12月14日	第1回市町村担当者会議及び第1回競技団体担当者会議を開催
平成30年 4月 1日	宮崎県総合政策部に国体準備課を設置
5月22日	第2回総務企画専門委員会を開催
7月 9日	第2回常任委員会及び第2回総会を開催
7月24日	第1回広報・県民運動専門委員会を開催
7月31日	第2回市町村担当者会議及び第2回競技団体担当者会議を開催
10月29日	第3回総務企画専門委員会を開催
12月19日	第2回競技運営専門委員会及び第2回広報・県民運動専門委員会を開催

年 月 日	内 容
平成31年 1月31日	第3回常任委員会を開催
2月 6日	第4回総務企画専門委員会を開催
3月15日	第3回市町村担当者会議及び第3回競技団体担当者会議を開催
4月 1日	国体準備課を国民スポーツ大会準備課に改称
令和元年 5月30日	第5回総務企画専門委員会を開催
7月 1日	第4回常任委員会及び第3回総会を開催 「第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会」に改称
7月 9日	第3回広報・県民運動専門委員会を開催
8月 2日	第1回開催基本構想策定検討部会を開催
8月28日	第4回市町村担当者会議及び第4回競技団体担当者会議を開催
11月12日	第6回総務企画専門委員会を開催
12月16日	第1回全国障害者スポーツ大会専門委員会を開催
12月17日	第2回開催基本構想策定検討部会を開催
12月20日	第5回市町村担当者会議及び第5回競技団体担当者会議を開催（合同開催）
令和2年 1月16日	第1回愛称・スローガン、マスコットキャラクター部会を開催
1月31日	第7回総務企画専門委員会を開催
2月 5日	第4回広報・県民運動専門委員会を開催
2月 7日	第3回開催基本構想策定検討部会を開催
2月17日	第5回常任委員会を開催
3月18日	第6回市町村担当者会議及び第6回競技団体担当者会議（資料配布のみ）
6月25日	第8回総務企画専門委員会を開催
6月25日	第2回愛称・スローガン、マスコットキャラクター部会を開催
7月 6日	第6回常任委員会を開催
7月29日	第2回全国障害者スポーツ大会専門委員会を開催（書面開催）
8月 7日	第4回総会を開催（書面開催）
8月20日	第7回市町村担当者会議を開催（テレビ会議）
8月24日	第7回競技団体担当者会議を開催
9月24日	第3回愛称・スローガン、マスコットキャラクター部会を開催
10月15日	日本スポーツ協会臨時国体委員会において、本県の国民スポーツ大会開催年が令和9年（2027年）に変更され、開催申請書提出順序了解県（内々定県）として再決定
11月 9日	第5回広報・県民運動専門委員会を開催

# 審議事項

## 1 第26回全国障害者スポーツ大会会場地市町村第1次選定（素案）

番号	競技（種目）	障がい種別	市町村	開催予定施設
1	陸上競技	身体・知的	都城市	（仮称）新宮崎県陸上競技場
2	水 泳	身体・知的	宮崎市	（仮称）新宮崎県プール
3	アーチェリー	身体	高原町	高原町総合運動公園多目的芝生広場
4	卓 球 （サウンドテーブルテニス）	身体・知的 ・精神	宮崎市	宮崎市総合体育館 宮崎市中心公民館
5	ボウリング	知的	宮崎市	宮崎エースレーン
6	ソフトボール	知的	日向市	お倉ヶ浜総合公園
7	サッカー	知的	新富町	（仮称）新富町フットボールセンター
8	フットベースボール	知的	延岡市	西階公園

開催予定施設は、今後、会場地市町及び競技団体と協議し決定する。

<参考：未選定競技（6競技）>

フライングディスク

ボッチャ

バレーボール

バスケットボール

車いすバスケットボール

グラウンドソフトボール

# 協議事項

## 第26回全国障害者スポーツ大会に向けた取組について～課題の整理～

## 1 第26回全国障害者スポーツ大会に向けた取組に対する基本的な考え方

課題解決に向けた取組に対する  
基本的な考え方

- ・大会後も、スポーツに継続して取り組む選手・指導者等の育成及び持続可能なチームづくりに努める。
- ・競技毎の支援に加えて、障がい種別に配慮した支援や個に応じた幅広い支援・事業に努める。
- ・ネットワーク化の充実や活動拠点の整備・拡充等、障がい者スポーツの環境整備に努める。
- ・障がい者スポーツに関わる支援者等の確保や一般競技団体との連携や取組を充実させ、スポーツを通じた共生社会に向けた取組を推進する。

## 2 選手の育成・強化について

## (1) 第26回全国障害者スポーツ大会における競技力向上について

全国障害者スポーツ大会の目的

第81回国民スポーツ大会・第26回全  
国障害者スポーツ大会開催基本方針

アンケート結果



第26回全国障害者スポーツ大会における競技力向上とは

- 個人競技における参加選手の自己記録の更新及び自己目標の達成を目指す
- 団体競技の上位進出を目指す

(2) 「選手・チームの育成・強化」の課題解決に向けた取組方針（案）

柱	目 標	取組例（●は現在取組事業を示す）
○推進体制の整備・充実	○選手の普及・育成を図るための委員会を設置し、計画的な育成を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツ普及・強化対策委員会の設置</li> <li>・強化計画等の作成</li> <li>・競技団体等との連携</li> <li>・各団体との連携の在り方検討等</li> </ul>
○選手及びチームの発掘・育成・強化	<p>○自己記録の更新や個人目標の達成を目指す</p> <p>○団体競技における上位進出を目指す</p> <p>○障がい者スポーツの普及をさらに推進し、第26回全国障害者スポーツ大会における全競技への参加を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者スポーツクラブの参加者を増やす</li> <li>・障がい者を受入れる一般スポーツクラブ数を増やす</li> <li>・各種大会や教室の参加者数を増やす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ普及・育成のための体験会（みんながアスリート事業）</li> <li>●チーム作りのための体験会（チャレンジドスポーツ事業）</li> <li>●障がい者スポーツクラブ（現35クラブ）への活動支援</li> <li>●障がい者スポーツ教室の実施→充実（参加者への啓発等）</li> <li>●県障がい者スポーツ大会の実施→充実（年齢制限緩和、複数種目エントリー等）</li> <li>●九州大会等への参加費支援</li> <li>●JPC加盟団体認定の強化指定選手等アスリート支援</li> <li>●強化推進専門指導員の配置</li> <li>・定期的なイベントの実施</li> <li>・県独自の強化指定制度（選手・チーム）による支援</li> <li>・中学生や高校生との合同練習や練習試合の実施</li> <li>・一般スポーツクラブチームとの連携支援</li> <li>・県外遠征や県外チーム招待による費用の支援</li> <li>・県外等優秀指導者の招聘による実技講習会等の実施</li> </ul>
○指導体制の充実・強化	○関係団体等との連携を図り、大会後においても各種大会等を継続するとともに、各競技団体に所属する指導者等の人数の増加を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般競技団体が主催する大会との融合（ノウハウの蓄積等）</li> <li>・中学校、高等学校生との合同練習会計画への支援</li> <li>・主催大会への支援</li> <li>・3「指導者等の養成」を参照</li> </ul>
○育成・強化に係る環境整備	○競技用具やスポーツ活動の拠点等の確保や充実を図るとともに、障がい者スポーツ情報等（練習・大会等）のネットワーク化を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●競技用具の整備</li> <li>・使用制限等の緩和や車いす利用の啓発</li> <li>・練習会場の整備・充実</li> <li>・就労先への情報提供</li> <li>・国スポの医・科学サポートとの連携</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ等との連携・拠点確保</li> <li>・SNS等を活用したトレーニング等の情報発信</li> <li>・企業等との連携による情報の一元化に向けた取組</li> </ul>

### 3 「指導者等の養成」の課題解決に向けた取組方針（案）

柱	目 標	取組例
○指導者等を養成する体制の整備・充実	○競技団体等との連携を強化し、指導者等の養成目標数を設定し、計画的に養成事業を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般競技団体への障がい者部門の設置</li> <li>・競技団体が主催する講習会等への支援</li> <li>・障がい者スポーツ情報等を共有するネットワークの構築</li> <li>・宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会への取組支援</li> <li>・障がい者スポーツの普及・啓発</li> <li>・障がい者スポーツ指導者コーディネーターの配置</li> </ul>
○指導者等の確保	○一般競技団体との連携を図り、指導者等の養成目標数の達成を目指す  ・総合型地域スポーツクラブにおける有資格者数の増加 ・障がい者スポーツクラブに関わる支援者の増加 ・障がい者スポーツ競技団体の会員の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（各市町村の希望による）障がい者スポーツ教室の実施と更なる啓発</li> <li>●初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の実施</li> <li>・SNS等を活用した、県民全体への啓発活動</li> <li>・障がい者スポーツの体験会等を県内各地で実施</li> <li>・障がい者スポーツクラブと連携した競技別指導者等養成講座の開催</li> <li>・一般競技団体等からの実技指導に対する支援</li> <li>・特別支援学校以外の指導者等の資格取得等の啓発</li> </ul>
○指導者等の育成と資質の維持	○一般競技団体との連携を図り、指導者等の資質の向上を図る  ・有資格者の登録者数について、年に初級5名、中級2名、上級1名の増加を目指す ・障がい者スポーツクラブ指導者への有資格保有率の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>●有資格者の中級・上級養成講習会への派遣助成</li> <li>●中央競技団体主催の審判講習会への派遣助成</li> <li>・障がい者スポーツ指導者としての資質維持・向上に向けたフォローアップ研修会の定期的な実施</li> <li>・一般競技団体や県外指導者による講習会の実施</li> <li>・定期的な大会開催に向けた支援</li> </ul>
○指導者等の養成に係る環境整備	○指導者等の活躍の場の確保・拡充を図るとともに、障がい者スポーツ等のネットワーク化を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資格取得者へ講習会等の案内</li> <li>・定期的な障がい者スポーツ指導者等の情報提供</li> <li>・資格取得者に定期的な障がい者スポーツクラブ見学会を実施</li> <li>・県内で開催する講習会等で講師として派遣要請</li> <li>・定期的な大会開催に向けた支援</li> <li>・SNS等を活用した練習会等の情報の提供</li> <li>・企業等との連携による情報の一元化に向けた取組</li> </ul>

#### 4 「ボランティアの養成」の課題解決に向けた取組方針（案）

※取組例については、「手話・要約筆記ボランティア」についての例を記載。

柱	目 標	取組例
○推進体制の整備・充実	○関係団体等と連携・協力し、推進するリーダーを養成するとともに、養成者目標数を設定し、計画的に養成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム・テキストの作成</li> <li>・先催県視察</li> <li>・各地区にリーダーを養成</li> <li>・関係機関との連絡会議の実施</li> <li>・イベントの計画</li> <li>・オンラインでの研修環境整備</li> </ul>
○ボアボランティアの確保	○国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に必要な養成者数を確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なメディアを活用した広報活動</li> <li>・地元の手話サークル等を活用した養成講座等の実施</li> <li>・地元の手話サークル等への出前講座（障スポボランティアの説明）の実施</li> <li>・宮崎県等ボランティアセンターと連携した啓発活動</li> <li>・イベントの実施</li> </ul>
○ボランティアの養成と資質の維持向上	○既存団体やNPO等の関係機関との連携を強化し、ボランティアの養成講座の実施・充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●段階に応じた講座の開設</li> <li>・既存の手話、要約筆記養成講座との連携事業の実施</li> <li>・教育機関（サークル・生徒会等）との連携</li> <li>・親子で参加できる講習会等の実施</li> <li>・オンラインでの講習会やレベルアップ講座の実施</li> <li>・活動機会の確保（各事業との連携）</li> <li>・上級資格取得に向けた支援</li> </ul>
○ボランティア養成に係る環境整備	○ボランティアの活躍の場の拡充とネットワーク化を推進する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存事業への手話通訳士等の派遣助成</li> <li>・ボランティアセンター等と連携した情報提供</li> <li>・宮崎県ボランティアポータルサイトの活用</li> <li>・SNS等を活用したスポーツボランティア情報の提供・充実</li> <li>・県内におけるボランティア情報の啓発方法を検討、確立</li> <li>・スポーツボランティア人材バンクの設立</li> </ul>

<参考>

- 第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会開催基本方針（一部抜粋）

大会基本方針（一部抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民総参加型による“おもてなしの心”あふれる大会を目指します。</li> <li>○ 大会の開催を契機として、競技力の向上や地域スポーツの普及・振興を図ります。</li> <li>○ 県民の健康増進や生きがいがづくりに取り組むとともに、障がい者に対する理解を深め、障がい者の社会参加を進めます。</li> <li>○ 本県の多様な魅力を全国に向けて発信し、スポーツを生かした「未来のみやざき」づくりを推進します。</li> </ul>

実施目標	具体的な取組（案）
1 「チームみやざき」で創りあげる大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 県民運動の推進</li> <li>2 ボランティア活動等の推進</li> <li>3 県内各地での競技会の開催</li> </ul>
2 スポーツの素晴らしさを体感できる大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 競技力の向上</li> <li>2 スポーツを支える人材の育成</li> <li>3 健康増進や生きがいがづくりの推進</li> </ul>
3 宮崎県の魅力を全国に発信する大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 宮崎県の多彩な魅力の発信</li> <li>2 来県者等へのおもてなしの推進</li> <li>3 大会文化プログラムの展開</li> </ul>
4 「未来のみやざき」づくりを進める大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 「スポーツランドみやざき」の拠点づくりの推進</li> <li>2 スポーツを生かした地域の振興</li> </ul>
5 共に支え合う社会づくりを進める大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 国民スポーツ大会と全国障害者スポーツ大会の一体的な開催</li> <li>2 障がい者スポーツの振興</li> <li>3 バリアフリー等に配慮した大会運営</li> </ul>

- 「3 指導者等の養成」における中での語句の意味について

有資格者	日本障がい者スポーツ協会認定の各（初級・中級・上級）障がい者スポーツ指導員の資格をもっている者
審判員	各競技のルールを熟知し、競技団体主催の規定講習会を受講し、認定を受けている者
指導者	クラブチームや部活動等でスポーツ活動を指導している者
指導者等	上記全てを含む。

その他



## 第26回全国障害者スポーツ大会に向けたアンケート調査 について（集計結果）

令和2年11月27日

第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会

全国障害者スポーツ大会専門委員会

※ ○は協力事項、<>内は事務局挿入を示す。また、回答の一部を事務局で修正している。

問1 個人競技における競技力向上について	問2 団体競技における障がい者スポーツの振興について
<p>○各競技団体や総合型地域スポーツクラブへの定期的な広報活動協力④</p> <p>○会員への呼びかけや機関誌等への掲載による情報提供②</p> <p>○各種大会参加の呼びかけ、引率者の確保協力</p> <p>○定期的な協会主催大会の開催③</p> <p>○指導を希望する個人や団体、合宿等への審判・大会運営への指導者派遣協力④</p> <p>&lt;普及に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技の普及及び強化③</li> <li>・普及に向けて競技を始める際の不安材料を取り除くための、安心・安全のアピール</li> <li>・協会主催大会の周知協力の要望</li> <li>・一般大会への障がい者受け入れ</li> <li>・クラブチームでの育成などインクルーシブな取組を期待</li> <li>・選手人数の増加（支援学校部活動の充実や生きがいづくり）</li> </ul> <p>&lt;推進体制・競技団体強化に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な実践（強化）</li> <li>・一般競技団体と連携した定期的な合同練習会の実施②</li> </ul> <p>&lt;選手への支援に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各競技団体と連携した選手支援</li> <li>・有望選手や強化候補選手、さらには年代別候補選手の選考・指定</li> </ul> <p>&lt;環境整備に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツが楽しめる環境整備（学校体育館の開放や地区体育館の利用制限の緩和等）</li> <li>・車いす利用の床損傷等への理解啓発</li> <li>・県有施設の優先利用の協力依頼</li> <li>・学校卒業後のスポーツ環境が乏しい。</li> <li>・県障がい者スポーツ大会の複数エントリー制</li> <li>・競技別の審判講習会、研修会を実施希望②</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手選考基準の明確化（目標設定による競技力向上）</li> <li>・障スポの持つ力(逆境を克服するロールモデル)の各種学校への紹介</li> </ul>	<p>○協会（競技団体）内に障がい者部門を新設</p> <p>○競技団体 HP の活用による情報提供協力</p> <p>○加盟の中学、高校、クラブ等の各カテゴリーの委員長への情報・選手募集などを啓発</p> <p>○児童生徒、教職員への呼びかけ</p> <p>○教育委員会各課との連絡調整</p> <p>○イベントや練習会の定期的な開催とその広報</p> <p>○特別支援学校の部活動活性化、専門指導者配置への協力依頼</p> <p>○県立高等学校の部活動との練習試合や交流などの協力依頼</p> <p>&lt;普及に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の充実・目的を明記した啓発</li> <li>・知り合いを通じた口コミやチラシ等の配布</li> <li>・地域でいろいろなチームの結成</li> <li>・地域にある総合型スポーツクラブとの連携</li> <li>・学校以外への選手確保に向けた啓発</li> <li>・SNS での活動報告や情報発信</li> <li>・障がい者スポーツの情報は、特別支援学校や障がい者施設に提供されているものの、県民へ理解啓発も必要。特別支援学校での団体競技の部活動は少いため、小体連・中体連・高体連との連携・広報が必要</li> <li>・県代表チームを作るのであれば、メディア等を活用し、広く県民に周知し選考会実施</li> </ul> <p>&lt;推進体制・競技団体強化に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体競技の整備に向けた事業を今年度より開始。スタッフに一般競技団体の方を入れたい。</li> <li>・体験会による参加の呼びかけには賛成だが、呼びかけの方法に工夫が必要。まずは、参加してもらうことが第一。</li> </ul> <p>&lt;指導者養成に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者養成の講習会や実技指導の実施</li> <li>・既存団体チームの指導者のスキルアップに対する支援</li> <li>・団体競技の専門コーチ不足</li> </ul> <p>&lt;環境整備に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動手段の軽減</li> <li>・保護者の協力体制強化・支援</li> </ul>

問3 今後の計画について（競技力向上）	問4 その他（競技力向上）
<p>○会場の提供協力</p> <p>○指導者の確保への協力</p> <p>○各特別支援学校との連絡調整協力</p> <p>○各特別支援学校の選手候補である生徒や指導者候補である教員について情報提供</p> <p>○競技のできる環境整備の協力</p> <p>○選手のコンディショニングづくりのためのサポート体制の協力依頼</p> <p>&lt;普及に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手選手の確保</li> <li>・普及啓発に向けた広報活動</li> <li>・協会 HP による情報発信</li> <li>・スポーツイベント企画・運営</li> <li>・情報発信・運動部活動の継続・充実</li> </ul> <p>&lt;推進体制・競技団体強化に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体競技を集めての合同会議が必要</li> <li>・県障がい者スポーツ協会の事業との連携・協力</li> <li>・協会主催大会への援助②(資金面、会場地確保等)</li> <li>・同種の競技団体とコラボレーションした競技力向上計画</li> </ul> <p>&lt;選手支援に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な練習会や合宿</li> <li>・強化等に必要経費等の助成</li> <li>・県内社会人や中学生との練習試合</li> <li>・県外遠征</li> <li>・中央競技団体からの指導者招聘</li> </ul> <p>&lt;指導者支援に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の育成（講習会等の実施）③と確保</li> <li>・指導者の資格取得や資質向上に向けた研修会の実施と充実</li> </ul> <p>&lt;環境整備に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手の就労先へのサポート・支援が必要</li> <li>・職場への理解、費用の援助等</li> <li>・障がい者スポーツ用具の配備</li> <li>・学校卒業後のスポーツに取り組む環境の整備</li> <li>・県の全国障害者スポーツ大会への選考基準の見直し</li> <li>・練習環境の整備・充実</li> <li>・国スポの推進計画は教育委員会（スポ振）が主体となり指導を行う教員の採用や配置等が行われており、特別支援にも教育委員会からの支援が必要</li> </ul>	<p>&lt;普及に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県障スポ大会への参加の呼びかけ。スポーツ人口の増加を目指す。</li> <li>・支援学校以外の施設（公立小中・私立学校、企業、病院、福祉関係等）への告知や情報発信</li> </ul> <p>&lt;推進体制・競技団体強化に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各競技の審判講習会や実技研修会など連絡を密に（要望）</li> <li>・先催県や強化の進んでいる県等からの情報収集</li> </ul> <p>&lt;指導者養成に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい種によりルールが異なり、統一した内容での育成が難しい。協力する側への支援</li> <li>・指導者派遣等・特別支援学校の、体育教員以外の指導者獲得</li> </ul> <p>&lt;環境整備に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所の確保</li> <li>・特別支援学校を卒業後の活動場所の保証。職場や事業所への理解、練習や試合への交通費の支援等があれば設立にプラスに働くのでは。</li> </ul>

問5 競技役員養成について	問6 指導者確保について
<p>○会員へ案内周知協力③</p> <p>○会員施設の職員でできることは積極的に協力したい。</p> <p>○各特別支援学校また教育委員会関係課との連絡調整協力</p> <p>○県スポーツ協会と連携し、各競技団体への理解と協力</p> <p>&lt;普及に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉施設（放課後等デイサービス等）からの人材養成</li> <li>・HP やメディア、ネット等県内全域に発信して全県民に募集</li> <li>・高齢化の課題、資格取得者の減少</li> <li>・本年度の陸協の審判員数は510名(R2.8月)で、昨年度より80名減となっている。高齢化や遠方等を考えるとさらに増やしておく必要がある。</li> <li>・役割と仕事内容の明確化による募集</li> </ul> <p>&lt;推進体制・競技団体強化に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STTなど障がい者スポーツ独自の競技は特に役員が少ない。早期の競技役員養成事業の立ち上げ必要</li> <li>・一昨年開催された全国高校総体でも競技役員、補助員の養成、確保は大変な課題であった。各体連（中体連・高体連）等や開催地市町と早くから連携をとり、関係機関との協力を得ることが特に大切</li> <li>・既存のマラソン大会に車いすマラソンの部門を設けるなど障がい者の大会を組込むなどの工夫が、理解啓発と競技役員養成にもつながる。</li> <li>・国スポと兼ねられる方を多く輩出したい②</li> </ul> <p>&lt;役員への支援に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判や運営責任者の視察派遣</li> <li>・養成講習会の開催②</li> <li>・資格取得後のフォローアップ研修会の実施</li> <li>・大会を実施することで実践の機会を提供②</li> </ul> <p>&lt;障がい特性に応じた支援に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STT 競技は、障がいの特性上特殊であり、視覚支援学校に従事された方など協力いただきたい。</li> </ul>	<p>○（競技団体）協会の登録者に資格取得の呼びかけ協力②</p> <p>○総合型地域スポーツクラブへの呼びかけ協力</p> <p>○学校職員への周知協力</p> <p>○講習会への講師派遣協力</p> <p>○技術委員会を通じ上級コーチへの取得の依頼協力</p> <p>○各特別支援学校また教育委員会関係課との連絡調整協力</p> <p>○県スポーツ協会と連携した周知協力</p> <p>○初級障がい者スポーツ指導員養成講習会への参加協力</p> <p>○会員への情報提供協力②</p> <p>&lt;指導者の確保・維持に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県スポーツ協会加盟団体との連携</li> <li>・資格取得後の活動場所の確保③（無所属の受講者への呼びかけ）</li> <li>・中高の指導者、公認指導者等多くいるが日々自分のカテゴリーの中での指導であり、障スポの指導まで至っていない。頼りは支援学校職員では。</li> <li>・現在のような地道な取組が必要</li> <li>・大学との連携</li> </ul> <p>&lt;指導者への支援に関すること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続するための研修会や審判講習会の充実</li> <li>・定期的な講座等が必要</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技団体の中に障がい者スポーツの部門を作っていただくことは可能か。</li> <li>・9月1日付けスポーツ庁、文科省との連名で、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」周知依頼があった。そこでは、「令和5年度以降休日の部活動の段階的な地域移行を図る」と示されている。これまで以上に体制の整備の必要性が高まったといえる。</li> </ul>

問7 その他（競技役員養成について）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県障がい者スポーツ大会での審判を毎年実施しているので全体の様子は理解しているが、本番は種別や区分も県大会以上にあるのでその違いを理解していきたい。</li> <li>・STTの審判は、実践（経験）を積まなければ難しいので、参加、体験を多くしてもらいたい。</li> <li>・明確な目標数値の設定</li> </ul>

#### 問8 ボランティア養成について

- 競技団体協会の登録者にボランティアの呼びかけ協力
  - 総合型地域スポーツクラブへの告知協力
  - 協会 HP での告知協力
  - 市町村社会福祉協議会や市町村ボランティア連絡協議会への案内を周知協力
  - 会員への周知協力
  - 本校職員や保護者への周知と依頼協力
  - 各特別支援学校また教育委員会関係課との連絡調整協力
  - 知的障害者へのサポート協力
  - 選手団サポート
  - 地域のスポーツ推進委員や競技団体関係者、総合型地域スポーツクラブ関係者に対し、広くボランティアへの参加の呼びかけ協力
  - 試合データの入力協力
  - 競技団体としてのできる限りの協力をしたい。
  - あん摩マッサージ指圧師の教師の派遣協力
  - 手話通訳業務として、開閉会式での手話通訳や参加者の通訳に対応できる技術を持った方の養成はかなり高度である（手話通訳士、手話通訳者レベル）。会場誘導、案内などの日常レベルの会話ができる（手話奉仕員）が情報支援ボランティアとしては、該当すると考える。要約筆記においても、専門的な知識を必要とする場面で対応される方と簡易な筆談で対応される方は別に考えて取り組む必要がある。協会として、状況に合わせたプランを提供し、養成に協力可能
  - 本学手話サークルや赤十字奉仕団等のサークルがあり、協力体制の構築に向けて検討したい。
- <普及・広報に関すること>
- ・近年ボランティアへの参加のニーズは高まっていると思う。
  - ・具体的な業務内容等を示す
  - ・早目の周知
  - ・途中経過や結果等掲示やディスプレイによる投影が主流となっており、人員確保は肝要
  - ・県民へ大々的に広報する
- <推進体制の整備・充実に関すること>
- ・情報支援ボランティアに関しては、県聴覚障害者協会、各市ボランティア協会と連携
  - ・聴覚障がいのある支援学校の職員への協力要請
- <ボランティアへの支援に関すること>
- ・他県の視察②
- <事業内容の充実に関すること>
- ・業務内容別や障がい種別の事業実施
  - ・中高生向けの事業実施
  - ・福祉事業所等と連携した会場美化事業

#### 問9 その他（ボランティア養成について）

- ・当会へのボランティア参加も激減してきている。一般選手と障がい者合同の大会により、養成のきっかけとしたい。
- ・他県のボランティア養成に関する資料をいただくと協力体制の構築に生かせるのでは

## 問10 全国障害者スポーツ大会について

### <要望>

- ・大会に向けて早日早目の情報提供をしてほしい。

### <体制強化>

- ・役員等も定期で変わることもあり、密な連携が必要

### <普及>

- ・最優先課題は選手の発掘・チームづくりだと思う。そのための県民への告知、認知度アップが不可欠である。競技団体のHPやSNS等も役立つツールであると思うが、TV、新聞等のマスコミの活用が一番効果的だと考える。
- ・障がい者の就労支援等をされている企業や病院等にも積極的にPRして選手派遣・ボランティアをお願いできたらと考える。
- ・地域での取組が大切
- ・行政・社協・教員等が中心となり障がい者スポーツを推進してほしい。
- ・国民スポーツ大会も同様であるが、広報活動等による機運醸成を図り、県民に広くアピールする必要がある。

### <環境整備>

- ・大会参加に伴う会場への移動手段が困難
- ・スポーツ用具をそろえることが困難であり助成が必要
- ・特別支援学校の部活を活性化し定期的な大会を実施
- ・各会場において、電光掲示板、ホワイトボードなど様々な手段を活用した情報アクセシビリティに配慮した大会としてほしい。
- ・全国障害者スポーツ大会を目指して取り組む生徒もいる。大会に向けての競技力向上等につながる合同練習会やイベントなどの計画・実施

### <その他>

- ・本県大会開催時にも、コロナ禍における大会の在り方を検討する必要がある。
- ・各競技会場等のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況等を今後示してほしい。
- ・総合開会式から各会場、各会場から総合閉会式の各競技のシミュレーション等、計画を今後示してほしい。
- ・最後にみんなで「チーム宮崎」ひとつになって頑張りましょう！

質問事項とその回答	
1	<p><b>今後団体競技のチームを組織・普及に対してどのような取組をしていくのか。</b></p> <p>今年度より3年間かけて未整備競技（4競技）を対象とした体験会等を実施している。その他の団体競技については、「みんながアスリート！」事業で実施していない「車いすバスケットボール」と「グランドソフトボール」を対象に、令和3年度より2年間の計画で競技の普及・選手育成等を実施していく予定としている。</p>
2	<p><b>団体競技チームの結成の課題は何か。</b></p> <p>指導者の確保、選手の参加のための移動手手段の確保、参加者の確保等が課題であると考えている。</p>
3	<p><b>障スポの競技力向上はどこを目指すのか。</b></p> <p>宮崎大会後もスポーツ活動が継続されるために、個人競技では、自己記録の更新及び自己目標の達成を目指し、団体競技については、全国障害者スポーツ大会上位入賞を目指すための支援をしていきたいと考えている。</p>
4	<p><b>特別支援学校では、放課後活動（部活動等）を実施し、大会上位を目指している生徒もいる。今後、特別支援学校へ練習状況の見学の実施について検討されているか。</b></p> <p>今後の事業内容が決定していく過程において、見学等も検討していきたい。</p>
5	<p><b>練習会場等の借用について予算等の優遇的な配慮は可能か。（競技力向上強化指定校制度のような減免処置や県有施設が優先的に借用できる措置等）</b></p> <p>障がい者手帳等利用による施設の利用率減免措置（手続きが必要）が受けられるため、現在、支援を行っていない。また、優先的に施設が利用できるための措置は行っていない。</p>
6	<p><b>選手・チームの育成・強化となると障がいの程度としては、軽度の方を対象としているのか。社会参加が目的の方は？</b></p> <p>全国障害者スポーツ大会に向けた競技力向上について、上記3のように個人に応じた目標を設定し、達成することを目指すことで、参加者の方全員を対象とでき、スポーツを通じた社会参加につながるものと考えている。</p>
7	<p><b>障がい者スポーツ用具は高価なものが多いと聞く。地域のスポーツ施設や障がい者福祉施設等に障がい者スポーツ用具等の設置を進めることはできないか。</b></p> <p>現在、県が委託している宮崎県障がい者スポーツ協会において、スポーツ用具の整備を進めている。障がい者スポーツ協会では、用具の貸出事業を実施している。</p>
8	<p><b>会場使用料、県外への遠征費、優秀指導者招聘、広報チラシ等の経費はどうか。</b></p> <p>育成、強化等に係る経費については、県が委託する宮崎県障がい者スポーツ協会への委託料において対応していく予定としている。</p>
9	<p><b>当団体で参加者を募り、何名か集まれば講師を派遣は可能か。</b></p> <p>競技団体と協議をして、派遣が可能か判断していくことになる。情報提供として、県障がい者スポーツ協会において、障がい者スポーツを体験していただく「出前講座」を実施している。</p>
10	<p><b>研修参加費が鍵となる気がする。その費用についての考えはあるか。</b></p> <p>現在、初級障がい者スポーツ指導員の資格取得後のステップアップ（中級、上級等への派遣）への支援等を実施している。研修参加費への助成については、今後の指導員数の状況を踏まえて、検討していきたい。</p>
11	<p><b>現在登録されている方は競技特定なのか多種競技対応可能なのか。</b></p> <p>初級障がい者スポーツ指導員は、障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員であるため、特定の競技に特化しているものではなく、競技選択は個人に委ねられている。その後の活動への結びつけが重要であると考えている。</p>
12	<p><b>鹿児島大会の延期に伴うタイムスケジュールの変更はいつ示されるのか。</b></p> <p>令和2年10月15日に日本スポーツ協会臨時国体委員会において、宮崎県・長野県・群馬県・島根県・鳥取県を開催申請書提出順序了解県（内々定県）として再決定された。第3回全国障害者スポーツ大会専門委員会において延期の報告とスケジュールの説明をさせていただく。</p>
13	<p><b>スポンサー等を募集しても良いのか？</b></p> <p>スポンサー募集については、今後、第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会宮崎県準備委員会（実行委員会）においても企業協賛（オフィシャルスポンサー・オフィシャルサポーター・オフィシャルサプライヤー等）を募集する予定である。</p>